

諏訪小学校菜園プロジェクト

担当者：浅田暢一 五味尚希 望月祐介（梅澤ゼミ3年）瀧沢佑汰（同ゼミ2年）

1. 概要

現在、都市化、少子高齢化社会の影響で、人と人との関係性が希薄になり地域の崩壊、地域力の低下が問題となっている。

本プロジェクトは、1960年頃まで日本のコミュニティや町内会で見受けられた「お隣同士で物を貸し借りできるようなつながり」、「世代を超えた多様な人と人との関係づくり・交流」を菜園という仕組み（デザイン）を通じて再生させることを目的として始まった。多摩市は学校・家庭・地域の三者が連携することによる子どもたちの育成を目指し、取り組みを行っている。私たちは、三者連携の発展を含め、地域交流を目指すこと、学校と地域の垣根を低くすること、地域の皆さん、特にお年寄りの方々と児童・保護者が世代間交流することを目的として、小学校を中心としたみんなの菜園を考えた。

そこで、自然と共に暮らすことをテーマとした「多摩の自然学校」※文科省推進小学校長期自然体験活動の開発事業を行うなど特色ある教育を行い、農業活動が盛んな諏訪小学校に企画提案を行い、農園活動を通して学校と地域をつなげるコーディネーターとして活動を目指した。

小・中学校では児童数が減少、限られた教職員数で学校運営しなければならない現状、学校と地域の連携を図りたいと思ってもマンパワー不足と伺っていた。この課題解決の方法として、学生が学校と地域のコーディネーター役を果たすことで、学校と地域の交流が活発になればと考えた。次世代を見守り育てることを通じて地域もつながるのではと考えつつ、諏訪小学校の農園活動をお手伝いしながら、学校と地域、人と人をつなげる活動を模索している。

2. 活動報告

〔2月〕諏訪小学校にて校長先生と活動内容について第一回打ち合わせ。

〔3月〕4月から開墾作業が始まること、農園等環境担当の教員が決定するという前副校長先生からの連絡を受け、プロジェクトの計画について検討。

〔4月～6月〕開墾作業が始まり、主に雑草取りと水遣りの作業開始。農園等環境担当の先生からゲストティーチャーの人材発掘の依頼を受けるが、ゼミ生含め担当教員と話し合いの結果「子どもたちの授業に影響が出てしまう可能性がある」ということで一旦は辞退。その後、担当者間の話し合いにより、ゲストティーチャーを紹介することになった。（11月）

〔7～9月〕夏季休業中の菜園作業のシフトを決め、引き続き管理。秋学期に向けての開墾準備。地域の方々に我々を知ってもらうために、地域のラジオ体操に参加（8月27～31日早朝）。

〔10～11月〕恒例行事「野菜バザー」について、問題の改善を考え、活動場所の変更を学校側に提案。販売場所として諏訪小学校エリアである諏訪名店街を考え、諏訪名店街会長に本提案を検討いただき、



場所をお借りすることが決定。諏訪小学校側に企画書（案）を提出。フィールドワーク、地域交流を目的とし、近隣自治会、諏訪小学校・中学校が参加する地域清掃に参加（11月23日：祝日）。

3. 今年度の成果・課題点

成果として、第一に、諏訪小学校との合意形成が取れたことだ。私たちのプロジェクトが小学校にどのように関わっていくか、企画を説明し意見交換を行いながら小学校の了承を得て、春と秋の農園の準備作業や「野菜バザー」などの支援活動ができたことである。

第二に、諏訪小学校の課題点が理解できたことだ。小学校は、教職員の人手不足から、子どもたちの演奏、演技発表等、地域イベントへの参加が難しいこと（事前打ち合わせ等に出席できない）や農園管理が不十分になってしまっているという厳しい現状を把握することができた。※ブラスバンドの器材運搬などは、国士舘大学の学生ボランティアが行っている。

第三は、これまで正門で販売し保護者がお客様になっていた「野菜バザー」を外（諏訪名店街）で実施することができたことである。児童が学校から地域に出向き、売り手側になることで、生産活動、商品づくり、価格設定、販売、換金と、児童が経営の考え方を学び、これまでと違った目線（市場としての捉え方）で地域を見ることができたのではないかと考えている。

最後に、諏訪地域全体の特徴が把握できたことである。諏訪地域には、大きな都営団地があり、お年寄りや外国人の方々が多く住んでいる。また、諏訪小学校に通う児童数は、全校で149名と大変少なく、各学年1クラスとなっているため、運営する教員数も全体で15名であることが確認できた。諏訪地区委員会会長主催のラジオ体操への参加や、諏訪小学校周辺の地域清掃などに参加し色々とお話しできた。

プロジェクトの課題は、自治会の構成や小学校周辺地域に関して勉強不足、情報不足があげられる。ゲストティーチャーの依頼を頼まれていたが、小学校が希望する方を紹介することができなかった。

第二に、小学校との連絡方法である。メールが使えず、ゼミ担当教員から小学校にFAXで連絡、先方からの電話回答を待つという方法であった。ご担当の先生とはなかなか連絡がとれずに、タイミングを逃してしまうことも多かった。紹介したゲストティーチャーがいつの間にか断られていたり、野菜バザーの日程が最終打ち合わせで変更になっていたり戸惑うことが多かった。早く、正確で、確実なコミュニケーション方法を検討しなければならない。

謝辞

プロジェクトに関わって下さりご指導いただきました多摩市立諏訪小学校校長先生、農園等環境担当の先生、教職員の皆さまに、心よりお礼申し上げます。また、我々の企画（提案）「商店街での野菜バザー」を実現するにあたり、お力を頂きました諏訪名店街会長に感謝致します。